

弥生時代中期後葉（約 2100 ～ 2000 年前）

野洲平野における弥生時代について、野洲市教育委員会が実施した発掘調査によると、旧野洲町内でみつかった弥生時代の集落のうち、前期から後期まで営まれるのは、当遺跡の約 1 km にある市三宅東遺跡（図 1 参照）があります。それ以外の弥生時代の集落は非常に短い期間しか存続せず、頻繁に移動を繰り返す小規模な集落であったと考えられています（参考文献 1）。

今回当遺跡から方形周溝墓が 2 基みつかりました。方形周溝墓は、本来、集落の中で有力な力をもつ家族の家長や、それに連なる人（配偶者・家長の父母兄弟姉妹・子ども）のお墓で、群集して造られるのが一般的です。市三宅東遺跡や旧中主町・近隣の守山市内でこれまでにみつかった多数が群集する方形周溝墓とは、異なる傾向を示しています。このことは、当遺跡にあった弥生時代中期のムラは、短期間しか存在しなかった可能性を示しています。

参考文献：杉本源造「野洲町内の弥生遺跡」『滋賀考古 第 2 号』滋賀考古学研究会（1989 年）



2 基の方形周溝墓（方形周溝墓 1・2）

奈良時代（約 1,300 ～ 1,200 年前）

近畿地方では、7 世紀に入ると掘立柱建物が一般化します。A 2 区からも、掘立柱建物の柵が 1 列と、建物を 2 棟検出しました。同時期の井戸もみつっています。井戸の中からは、須恵器の壺などが出土しました。

平安時代中期（約 1,000 ～ 900 年前）

平安時代中期の溝は、調査対象地の北側から、調査区を東西方向へ横断するように、みつかりました（図 2 参照）。

溝の中から、緑色の釉薬をかけた緑釉陶器の碗や、透明な釉薬をかけた灰釉陶器の碗、土師器の皿などが出土しました。近くにこれらを使用していたムラがあったと考えられます。



井戸



溝 7

中畑・古里遺跡発掘調査現地説明会資料

平成 27 (2015) 年 11 月 14 日（土）／公益財団法人滋賀県文化財保護協会

私たちは文化財をととして
ゆたかな滋賀づくりに貢献します。

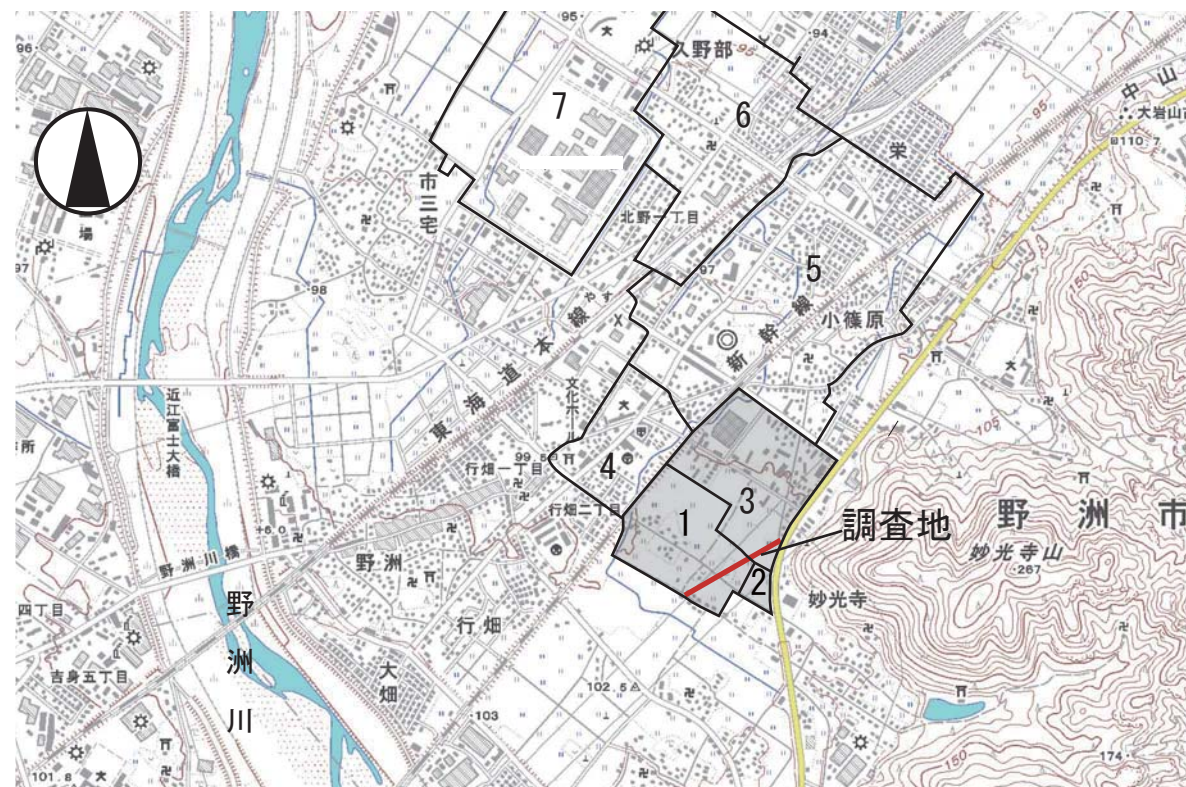
SINCE 1970

公益財団法人滋賀県文化財保護協会
Shiga Prefectural Association for Cultural Heritages

調査の概要

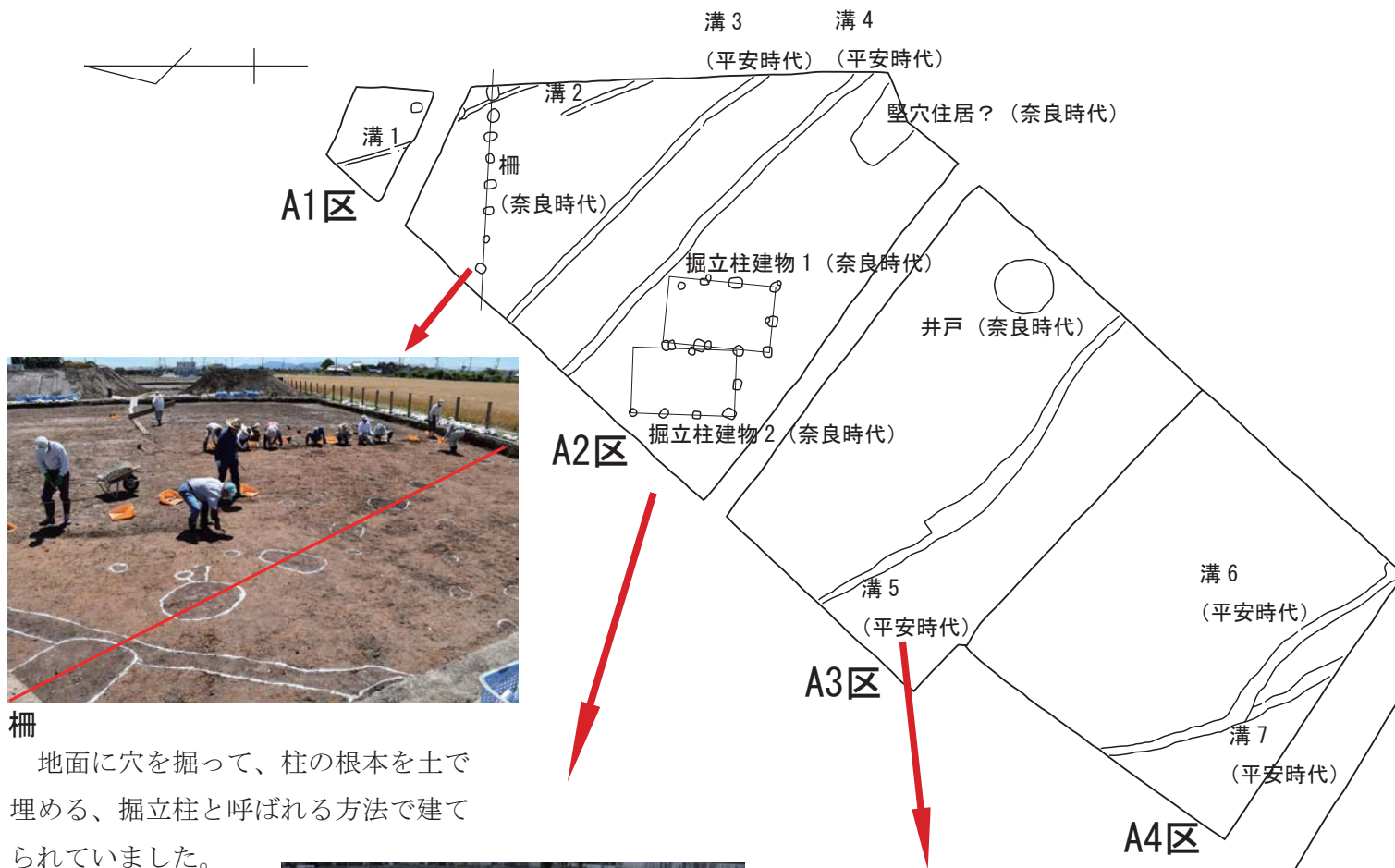
公益財団法人滋賀県文化財保護協会では、国土交通省滋賀国道事務所の依頼により一般国道 8 号野洲栗東バイパス工事に伴う、野洲市妙光寺に所在する中畑・古里遺跡の発掘調査を平成 27 年 5 月から実施しています。調査地内には、中畑・古里遺跡、斎ノ神遺跡、安城寺遺跡の 3 つの遺跡が分布しています。中畑・古里遺跡は、弥生時代中期から室町時代にかけての複合遺跡として、斎ノ神遺跡は、弥生時代中期の墓跡として周知されている遺跡です。発掘調査では、弥生時代中期後葉の方形周溝墓や、奈良時代の掘立柱建物・柵・井戸、平安時代中期の溝などがみつかりました。なお、調査は継続して平成 28 年 2 月頃まで実施する予定です。

※複合遺跡…二つ以上の時期にわたる遺跡。

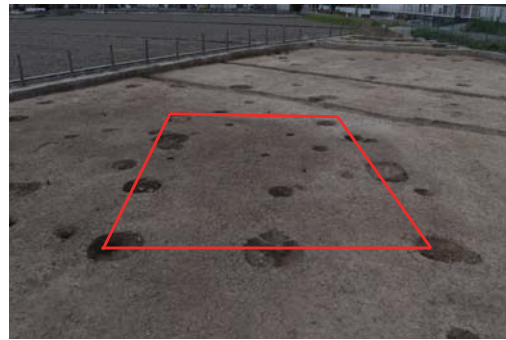


1. 中畑・古里遺跡（中期～後期）
2. 斎ノ神遺跡（中期）
3. 安城寺遺跡（中期～後期）
4. 下々塚遺跡（後期）
5. 小篠原遺跡（後期）
6. 久野部遺跡（後期）
7. 市三宅東遺跡（前期～後期）

図 1 中畑・古里遺跡と周辺の弥生時代の遺跡（1:25,000）



柵
地面に穴を掘って、柱の根本を土で埋める、掘立柱と呼ばれる方法で建てられていました。



掘立柱建物 1
長方形の平面をもつ建物が、2棟みつかっています。



溝5から出土した土師器皿
平安時代の溝5の中から出土した、素焼きの小皿です。



方形周溝墓 1
方形周溝墓は、1・2とも墳丘の一边は8.5mで、周溝の幅は0.6～2.2mです。墳丘内部に設けられた埋葬施設は、後世に削平を受けたため、残っていませんでした。



方形周溝墓 2
方形周溝墓は、1・2とも墳丘の一边は8.5mで、周溝の幅は0.6～2.2mです。墳丘内部に設けられた埋葬施設は、後世に削平を受けたため、残っていませんでした。



方形周溝墓2から出土した供献土器
方形周溝墓2の周溝内部からは、墓前に供物や食物を奉げるために使われたと考えられる、きょうけんどき供献土器（弥生土器壺）が、1点出土しています。



方形周溝墓

周囲を溝で区画し、内側に盛土をした、弥生時代を代表する墓です。その盛土した部分に、木棺などの埋葬施設が設けられます。



方形周溝墓想像図

※福井県敦賀市吉河（よしこ）遺跡の方形周溝墓（弥生時代中期）をもとに作図したもの。

参考文献：株式会社山川出版社

『山川 詳説日本史図録』（2008年）

0 20m
(1:500)

図2 みつかった主な遺構